

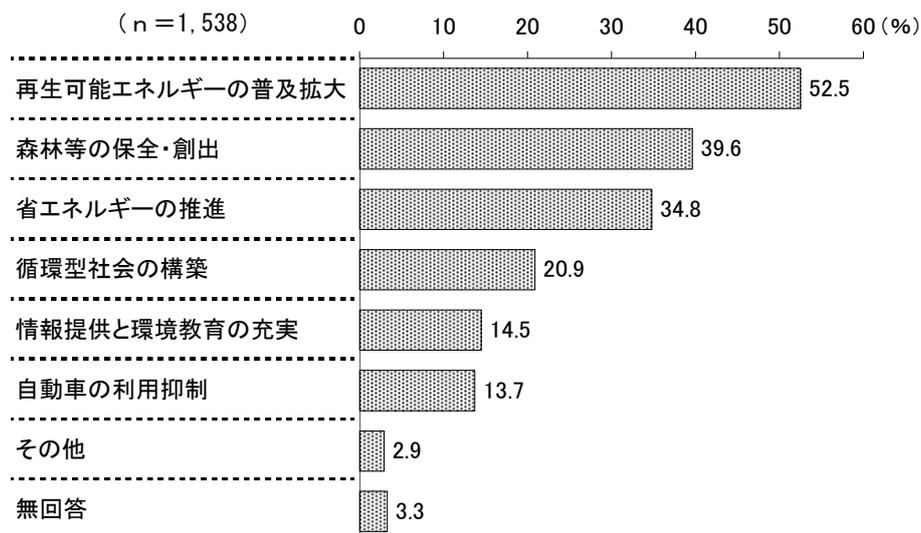
8 環境

(1) 地球温暖化防止への取組 (B: 問10)

問. 地球温暖化防止には、どのような取組が必要であると思いますか。

(2つまで選んでください)

図8-1-1 地球温暖化防止への取組



【全体】

地球温暖化防止への取組について聞いたところ、「再生可能エネルギーの普及拡大」(52.5%)が5割半ば近くで最も高く、次いで「森林等の保全・創出」(39.6%)、「省エネルギーの推進」(34.8%)、「循環型社会の構築」(20.9%)、「情報提供と環境教育の充実」(14.5%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「循環型社会の構築」(20.9%)は平成29年度調査(16.8%)より4.1ポイント増加している。一方、「省エネルギーの推進」(34.8%)は平成29年度調査(40.3%)より5.5ポイント減少している。

なお、平成27年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考記載とする。

表8-1-1 地球温暖化防止への取組—経年変化(上位5項目)

(%)

順位	令和元年度 (n=1,538)	平成29年度 (n=1,550)	平成27年度 (n=1,445)	平成25年度 (n=1,284)	平成23年度 (n=815)	平成21年度 (n=1,608)	平成19年度 (n=1,500)	平成17年度 (n=1,002)
1	再生可能エネルギーの普及拡大 52.5	再生可能エネルギーの普及拡大 52.0	各家庭や企業における省エネルギーの推進 67.3	各家庭や企業における省エネルギーの推進 70.1	各家庭や企業における省エネルギーの推進 78.4	各家庭や企業における省エネルギーの推進 81.6	各家庭や企業における省エネルギーの推進 80.8	各家庭や企業における省エネルギーの推進 79.5
2	森林等の保全・創出 39.6	省エネルギーの推進 40.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 36.5	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 47.7	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 46.9	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 50.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 48.3	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化 49.8
3	省エネルギーの推進 34.8	森林等の保全・創出 37.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 22.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 16.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.4	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.6	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 23.5
4	循環型社会の構築 20.9	循環型社会の構築 16.8	行政による地球温暖化防止のPR活動 23.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 18.5	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 13.7	行政による地球温暖化防止のPR活動 15.7	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実 19.5	行政による地球温暖化防止のPR活動 21.7
5	情報提供と環境教育の充実 14.5	情報提供と環境教育の充実 14.6						

(注) 平成27年度調査以前では、表8-1-1に示した4つの選択肢と「その他」の合計5つの選択肢で質問していた。

【属性別】

性別で見ると、男性では「再生可能エネルギーの普及拡大」(55.3%)が女性(49.9%)より5.4ポイント、「循環型社会の構築」(23.2%)が女性(19.4%)より3.8ポイント高くなっている。一方、女性では「省エネルギーの推進」(36.4%)が男性(32.7%)より3.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「再生可能エネルギーの普及拡大」は50～59歳(60.6%)が約6割と高くなっている。

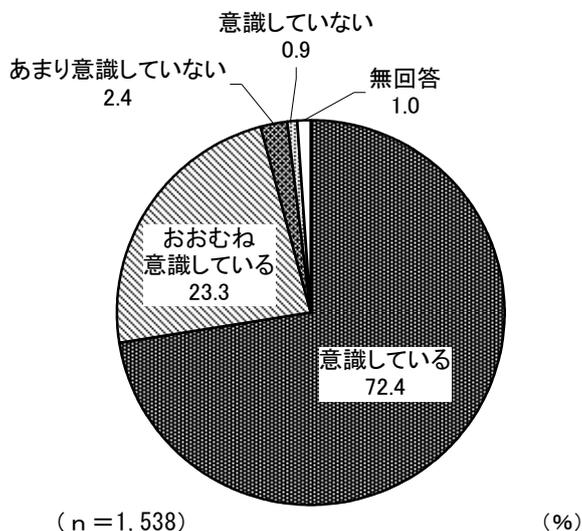
表8-1-2 地球温暖化防止への取組—性別、年齢別

		(%)								
		n	再生可能エネルギーの普及拡大	森林等の保全・創出	省エネルギーの推進	循環型社会の構築	情報提供と環境教育の充実	自動車の利用抑制	その他	無回答
全 体		1,538	52.5	39.6	34.8	20.9	14.5	13.7	2.9	3.3
性別	男 性	682	55.3	38.9	32.7	23.2	13.8	14.1	4.4	2.1
	女 性	837	49.9	40.1	36.4	19.4	15.1	13.5	1.7	4.3
年齢別	20歳未満	21	42.9	38.1	42.9	19.0	19.0	9.5	4.8	-
	20～29歳	92	55.4	40.2	38.0	20.7	12.0	8.7	4.3	2.2
	30～39歳	179	57.5	40.8	30.7	18.4	16.8	12.3	3.4	0.6
	40～49歳	264	54.2	43.9	31.4	21.6	12.5	11.0	6.4	1.1
	50～59歳	218	60.6	37.2	38.5	21.1	13.3	11.0	1.4	2.3
	60～69歳	321	53.0	38.9	36.1	22.7	16.5	14.6	1.6	1.2
	70～79歳	309	46.0	37.9	35.3	22.0	14.2	16.8	1.9	8.1
80歳以上	128	40.6	37.5	33.6	16.4	14.1	20.3	2.3	7.8	

(2) 資源とごみの分別 (B: 問11)

問. 資源とごみの分別を意識していますか。(1つだけ選んでください)

図8-2-1 資源とごみの分別



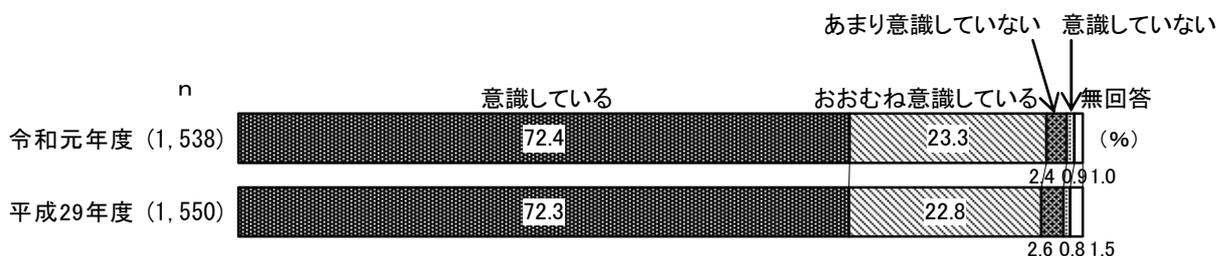
【全体】

資源とごみの分別の意識について聞いたところ、「意識している」(72.4%)と「おおむね意識している」(23.3%)の2つを合わせた『意識あり』(95.7%)が9割半ばと高くなっている。「あまり意識していない」(2.4%)と「意識していない」(0.9%)の2つを合わせた『意識なし』(3.3%)は1割未満となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、平成29年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図8-2-2 資源とごみの分別—経年変化

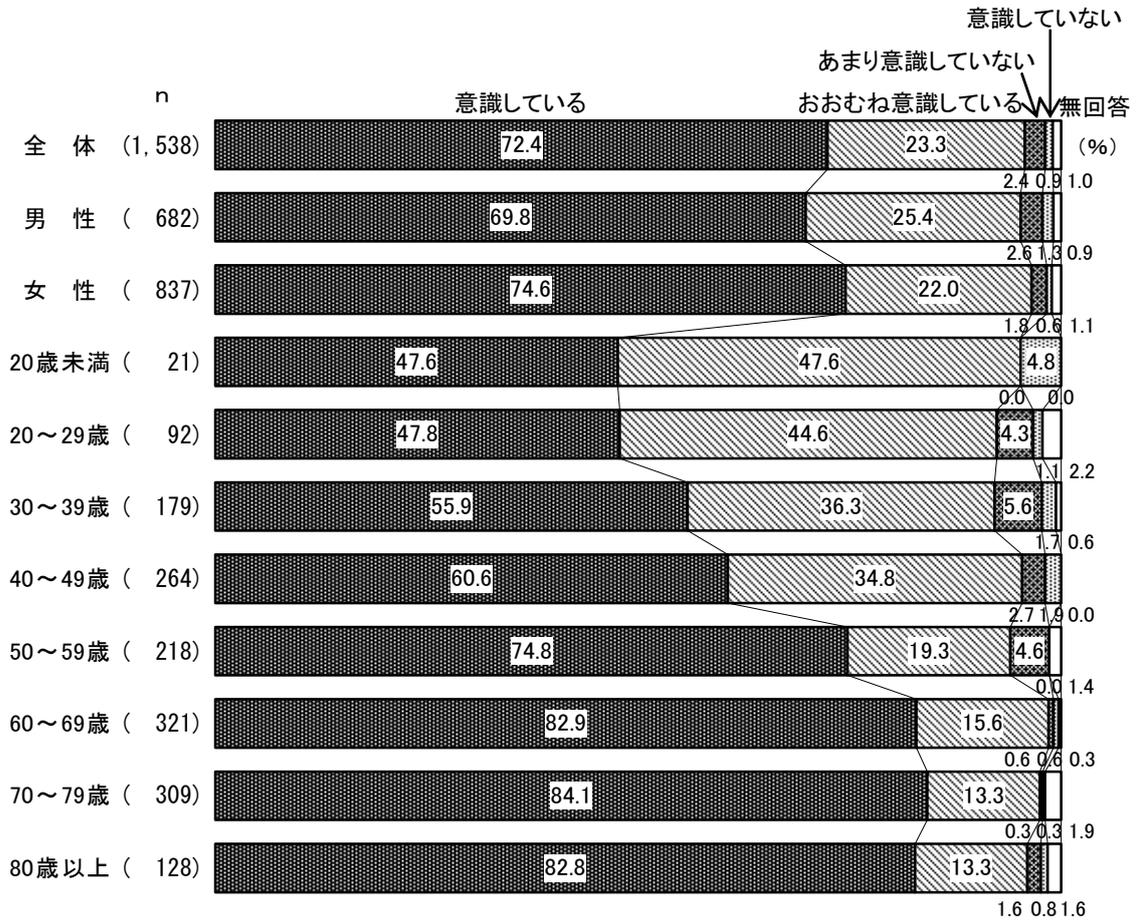


【属性別】

性別で見ると、女性では「意識している」(74.6%)が男性(69.8%)より4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、『意識あり』はすべての年代で9割台と高くなっている。「意識している」は60～69歳以上の年代が8割台と高くなっている。

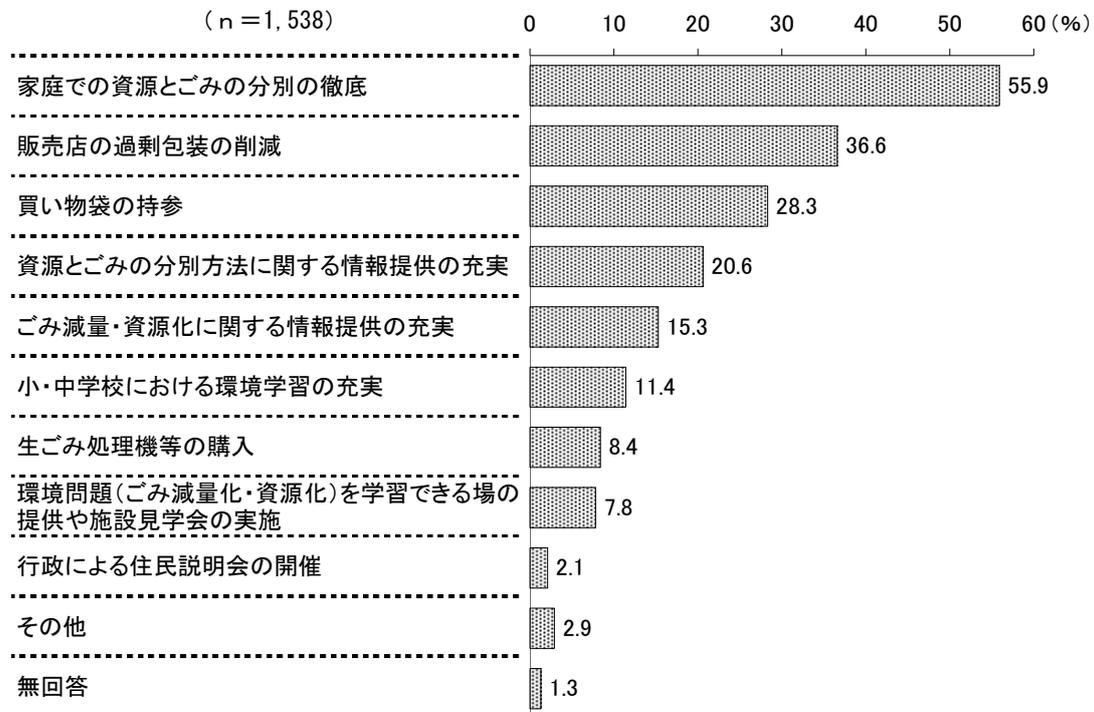
図8-2-3 資源とごみの分別—性別、年齢別



(3) ごみの減量化・資源化の推進 (B: 問12)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、どのような取組が重要だと思いますか。
(2つまで選んでください)

図8-3-1 ごみの減量化・資源化の推進



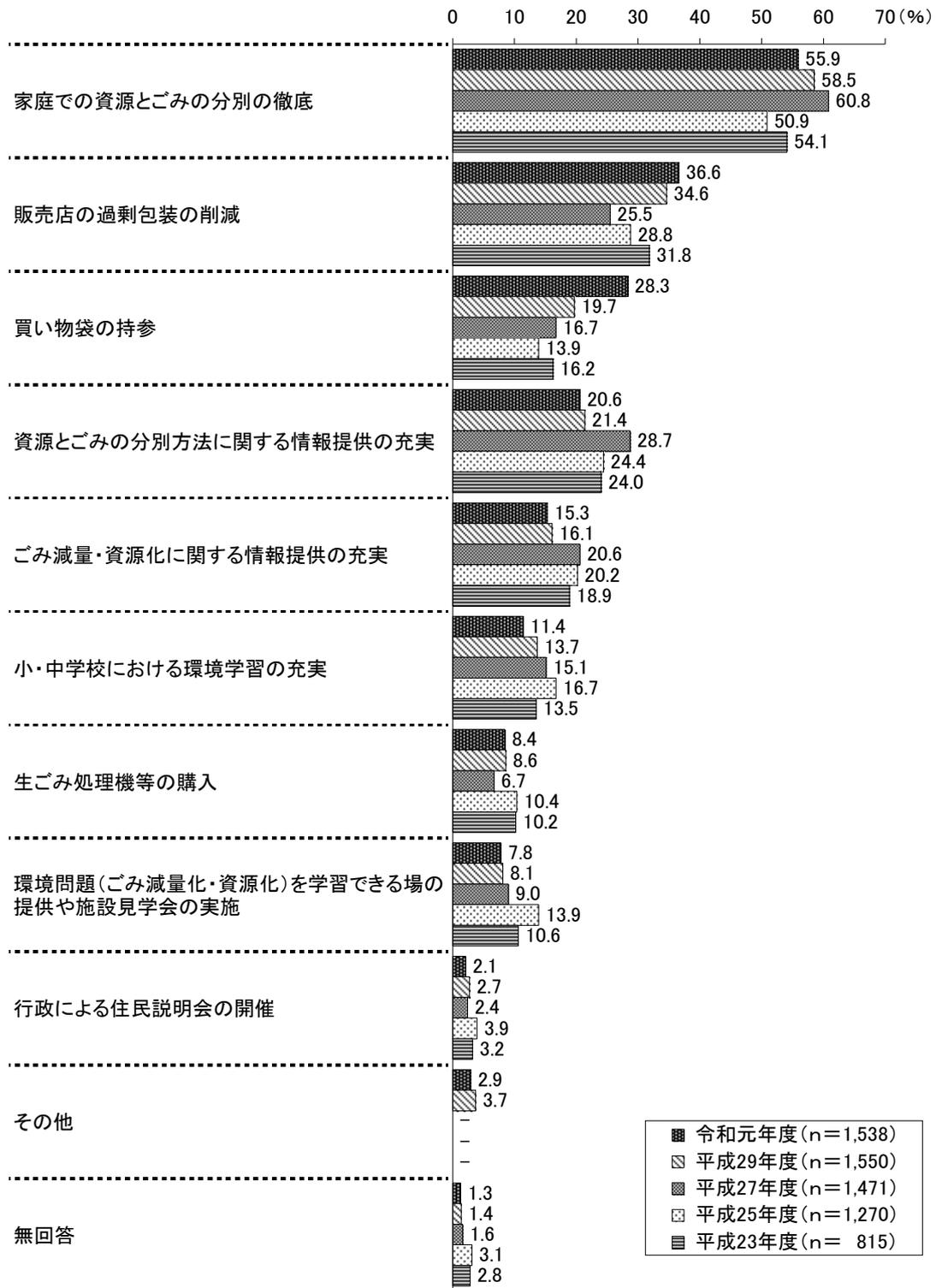
【全体】

ごみの減量化・資源化の推進について聞いたところ、「家庭での資源とごみの分別の徹底」(55.9%)が5割半ばで最も高く、次いで「販売店の過剰包装の削減」(36.6%)、「買い物袋の持参」(28.3%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(20.6%)、「ごみ減量・資源化に関する情報提供の充実」(15.3%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「買い物袋の持参」(28.3%)は平成29年度調査(19.7%)より8.6ポイント増加している。

図8-3-2 ごみの減量化・資源化の推進—経年変化



(注) 平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「買い物袋の持参」（31.7%）が男性（24.2%）より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「家庭での資源とごみの分別の徹底」は80歳以上（66.4%）が6割半ばを超えて高くなっている。「販売店の過剰包装の削減」は30～39歳（45.3%）が4割半ばと高くなっている。「買い物袋の持参」は20歳未満（42.9%）が4割半ば近くと高くなっている。

表8-3-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

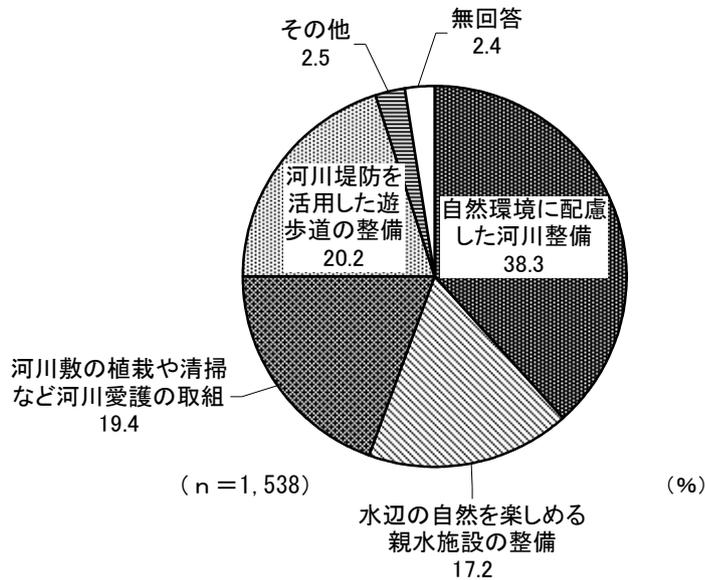
(%)

		n	家庭での資源とごみの分別の徹底	販売店の過剰包装の削減	買い物袋の持参	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	ごみ減量・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校における環境学習の充実	生ごみ処理機等の購入	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の提供や施設見学会の実施	行政による住民説明会の開催	その他	無回答
全 体		1,538	55.9	36.6	28.3	20.6	15.3	11.4	8.4	7.8	2.1	2.9	1.3
性別	男 性	682	55.7	35.6	24.2	21.8	17.3	12.3	7.5	7.9	2.8	3.2	1.0
	女 性	837	56.3	37.5	31.7	19.4	13.9	10.4	9.0	7.5	1.4	2.7	1.6
年 齢 別	20歳未満	21	57.1	28.6	42.9	14.3	23.8	9.5	9.5	4.8	-	4.8	-
	20～29歳	92	47.8	41.3	35.9	19.6	14.1	10.9	10.9	4.3	-	5.4	1.1
	30～39歳	179	44.7	45.3	21.8	25.1	14.0	12.3	16.8	5.0	1.1	5.6	0.6
	40～49歳	264	50.8	41.3	22.7	23.5	12.9	13.3	8.7	8.3	0.8	6.1	-
	50～59歳	218	53.2	41.7	22.5	24.8	13.3	12.4	6.4	11.5	0.9	1.8	1.8
	60～69歳	321	61.1	32.4	29.3	17.8	18.1	13.7	5.9	8.4	3.1	1.2	0.6
	70～79歳	309	61.5	30.4	32.4	21.0	15.5	8.1	6.1	7.8	3.6	1.3	2.6
	80歳以上	128	66.4	29.7	38.3	8.6	18.0	6.3	9.4	5.5	3.1	0.8	3.1

(4) 河川整備への取組 (B: 問13)

問. 厚木市内の河川整備について、どのような取組が必要であると思いますか。
(1つだけ選んでください)

図8-4-1 河川整備への取組



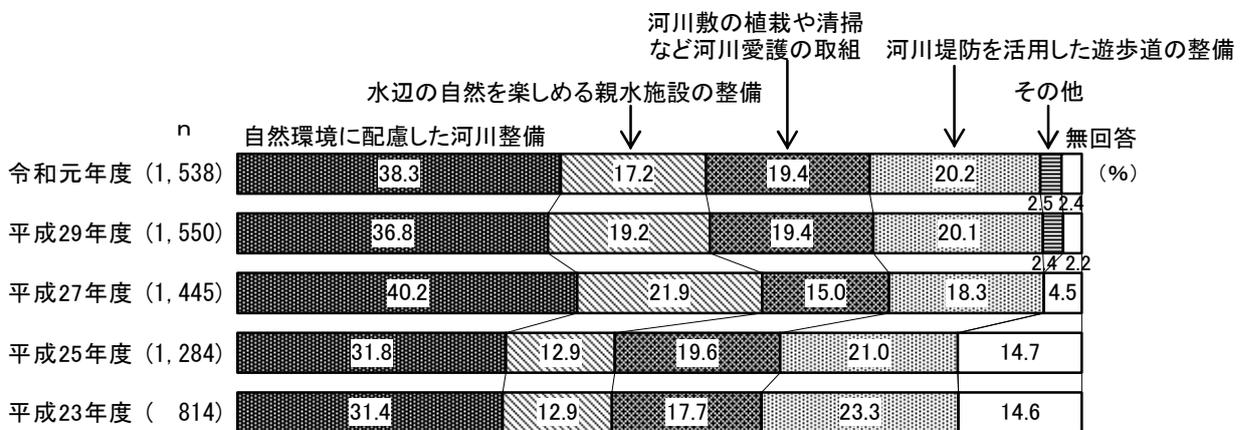
【全体】

河川整備への取組について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(38.3%)が4割近くで最も高く、次いで「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(20.2%)、「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」(19.4%)、「水辺の自然を楽しむ親水施設の整備」(17.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、平成29年度調査と比べて大きな差異は見られない。

図8-4-2 河川整備への取組—経年変化



(注1) 「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は、平成27年度調査以前では「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組」としていた。

(注2) 平成29年度調査以降では、「その他」の選択肢を追加している。

(注3) 平成25年度調査以前では、「河川環境の整備がされていると感じることは何ですか。」と質問していた。

【属性別】

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「自然環境に配慮した河川整備」は70～79歳（42.4%）と80歳以上（43.0%）が4割台と高くなっている。「水辺の自然を楽しめる親水施設の整備」は20～29歳（25.0%）が2割半ばと高くなっている。「河川敷の植栽や清掃など河川愛護の取組」は20歳未満（33.3%）が3割半ば近くと高くなっている。

図8-4-3 河川整備への取組一性別、年齢別

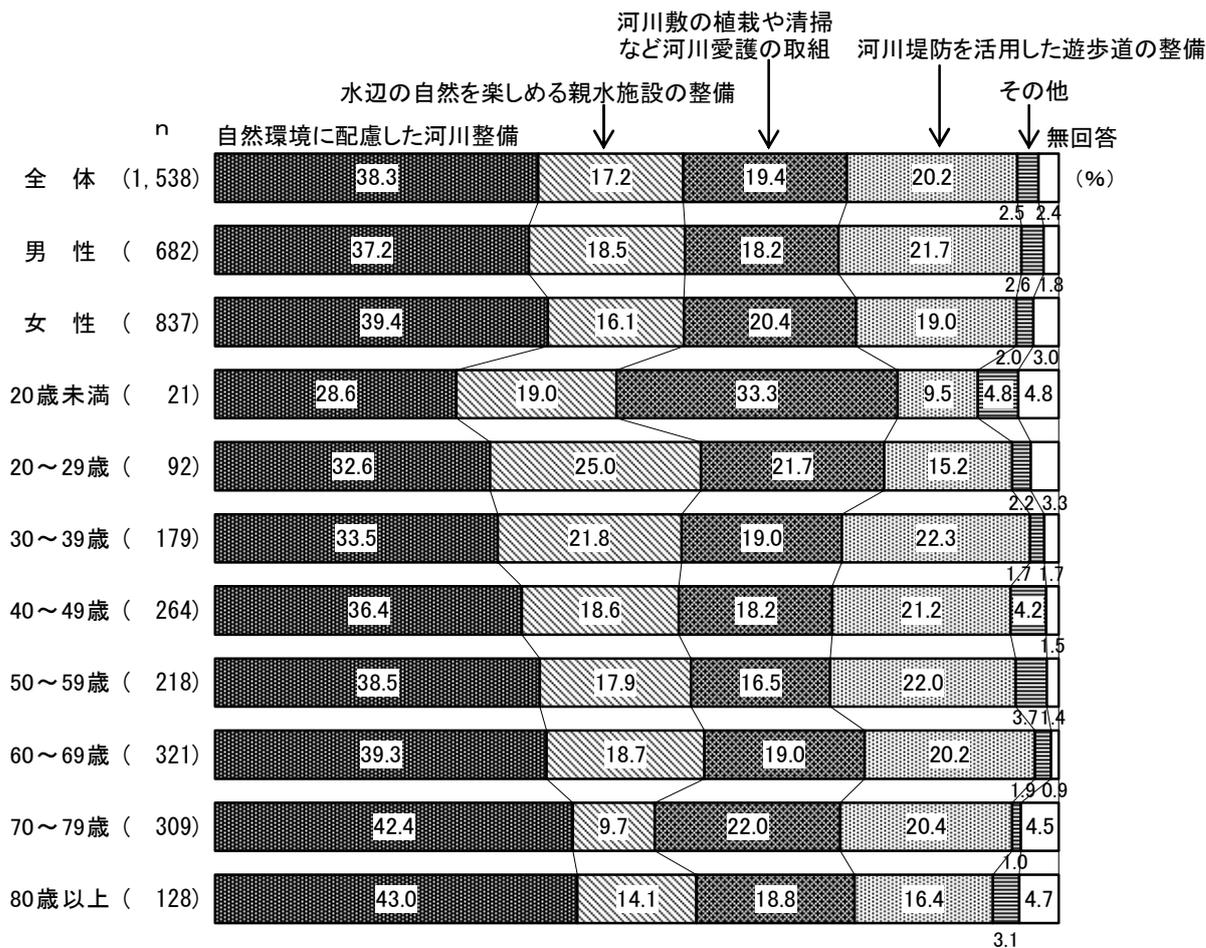


図8-4-4 河川整備への取組—居住地区別

